

令和3年 秋の防災教室「災害対策ウォーキング」のご報告

令和3年11月23日
企画：尾上町内会防災部会

去る11月13日（土曜日）秋の防災教室「災害対策ウォーキング」を実施しました。今回初となるこの企画には、和田・北浦・南浦・中浦・上浦地区の町民20名の参加がありました。この会の目的は、1. 自分たちの住んでいる地区の災害危険箇所を過去の災害を踏まえながら実際に歩いてみて災害に備えましょう。2. ウォーキングに参加することで地域の住民間の親睦を深め、災害時には互いが協力し助け合うことを学びましょう。ということでした。それでは現地の写真を紹介しながら「災害対策ウォーキング」について報告いたします。



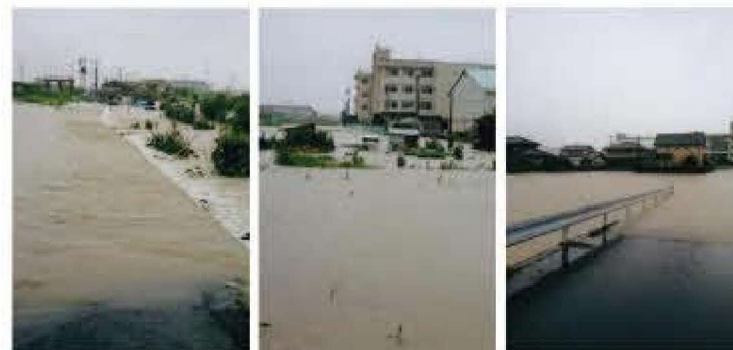
①朝の9時に尾上かみのバス停に集合しました。秋晴れの好天に恵まれて、絶好のウォーキング日和でした。



②処理場西仮橋の工事現場での説明の様子です。尾上地区には、主に笹ヶ瀬川・中川・砂川・西川用水等が流れています。周辺は花崗岩質の山並みですから、上流から多くの土砂が流れて堆積した肥沃な土地です。古代から稲作が盛んで、条里制が引かれた美田が広がっています。ただし、防災の観点から考察すると、長年の土砂が堆積して川底が浅くなった天井川が氾濫すると尾上地区は3m～4mの浸水が発生すると防災マップにあります。また大地震が発生すると液状化の現象で家屋が傾いたり倒壊する危険も指摘されています。実際3年前の7月豪雨では、小学校東の横手堤（通称石巻道）と比丘尼橋付近の堤防からの越水で多くの家屋の浸水が発生してしまいました。西川の堤防道に沿って歩きながら川底の土砂の状態や堤防の状況を点検しました。



③小学校東の横手堤（通称石巻道）です。江戸時代に築かれた堤防で、和気の閑谷学校の石堀と同じ構造です。西川（三丁川）が氾濫すると、この横手堤を越えて尾上の田んぼに流れ込むように設計されています。当時はそうすることで一宮地区・西辛川地区の大規模な洪水を軽減する効果があったのだと考察できます。ところが、川下に新幹線や側道が通り、住宅も造成されたために、横手堤を越水した水が尾上や白石地区に溜まってしまふ現象が起きるようになってしまいました。



○3年前の7月豪雨の時、横手堤からの越水の状況と小学校付近の浸水被害の状況です。



④小学校から和田の信号機のあたりを歩きました。信号機の東側の用水には7月豪雨の時には大量の土砂が流れて堆積していました。上流の清心女子大学の一宮校舎上流から流れ出たものであると推察できます。



- ⑤清心女子大学一宮校舎と大谷池から北浦地区を歩きました。この辺りは、大谷池・中池・新池と続く谷合から流れ出た土砂が堆積した扇状地形になっています。一宮校舎は災害時の臨時避難場所になっていますが、向かって右側の斜面は土砂災害危険区域になっているので災害の状況を見極めて避難することになります。3年前の7月豪雨では一宮校舎の左側の斜面が崩れて、中池に流れ込みました。池の越水や決壊がなく大災害には至りませんでした。下流に住んでいる住民のみなさんは大雨の時には警戒が必要だと感じました。

ポンプ場の隣と今保地内に令和5年度の梅雨時期までに稼働する予定で新たな都市型の水揚げポンプ場が建設中です。これにより浸水被害は軽減できると思いますが、災害は想定する範囲を超えた被害をもたらします。地震や台風、洪水に十分備えなければなりません。八幡宮は高台にありますから洪水の際に一時的に避難することができます。尾上地区で被災された住民があった場合は、高齢者の避難誘導、炊き出しや援助など近隣の住民同士の協力や助け合いが大切になってきます。尾上町内会が企画する活動や行事に参加して互いが顔見知りになり、住民同士の絆を深めてもらいたいと思います。最後に災害救援物資の飲料水と非常食をお渡しして会を終りました。

※次回は尾上町内会下地区のみなさん対象に「災害対策ウォーキング」を計画する予定です。



- ⑥北浦地区の金堀坂を歩き、八幡宮に向かいました。3年前の7月豪雨では数か所のがけ崩れが発生し、日蓮堂が壊れたり民家の庭先まで土砂が流れたり通学路がふさがれたりしました。ここは土砂災害特別危険区域に指定されています。



- ⑦八幡宮で3年前の7月豪雨の検証を防災委員で行いました。みなさん熱心に聞いていただき、当時の様子など話し合ってくれました。現在、白石